

孤独を楽しむ、生かす

夏休みが終わり、早1か月がたとうとしています。学校に子供たちが戻り、明るい声があふれる日々が続くと、思わずにっこりしてしまう、嬉しくなってしまうのは教員の「さが」なのでしょう。また頑張らなければと、自分自身を奮い立たせると同時に、いろいろな行事がある2学期に向けて、先生方も子供たちも精一杯取り組んでくれている様子に感謝の気持ちが溢れます。この「かがやく子」の記述中も「暑さ」に気を付けながら運動会の練習が進んでいます。

さて、そんな中ですが一人で校長室にいと孤独を感じます。運動会の練習の時期は学年や学団の練習とも切り離され、それでいて、子供たちの声や指導する先生方の声に耳と心が奪われ、全体練習の時はずっと見守ることに終始してしまいます。校長としての仕事にも恥ずかしくも身が入らず宙ぶらりんな気持ちでいることが多いように思います。担任として子供と関わっていた頃はあっという間に1日が過ぎていき、孤独を感じるゆとりすらありませんでした。しかし、孤独だとは思いますが、寂しいと思うことはありません。生来一人でいることが苦にならないのかもしれませんが、家にいるときも同じです。子供たちが独立し、一人の人間としては、ようやく自分なりの歩き方や生き方が見付かってきたように感じます。やりたいこと、やってみたいこと、知りたいことが増えているように思えます。ALONE であっても LONELY ではないと思っています。時間があっても、何に使おうかと迷うこともあるくらいです。たくさんの家族に囲まれていても寂しい人はいます。反対にたった一人でも心が満たされている人もいます。長い間、私は人の評価が気になって、人からどう思われているのかとか、どうすれば人に気に入ってもらえるかということに、とらわれ過ぎていたような気がします（無頓着の間違いじゃないのという人もいますが）。この歳になってようやく、やりたいことを見付け、時間をやりくりしてでも、それを実現していくという自分らしい生き方のスタイルが見付きそうです。だから、学校でも孤独を楽しみ、一人でじっくり考え判断し（もちろん相談は十分に行いますが・・・）、職員や子供たちのじゃまにならないように、彼ら、彼女らが安心して過ごすことができる学校の方向を示していけたらと思っています。

誰しもがいろいろな価値観があり、自問自答しながら自分を見つめ直すことの繰り返しです。この2学期には、子供たちに自分を見付けること、表すことの大切さや意義を考えることのできる大切な時間にしてほしいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、いつもご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。2学期もよろしく申し上げます。（校長 村杉 一也）